



四小だより

■よく考え学ぶ子 ■じょうぶでたくましい子 ■心の豊かな子

3月号

令和6年2月29日発行

新座市馬場3-6-1

048(478)3192

一年を振り返って

校長 岡野 信幸

q

コロナの5類移行以来、インフルエンザが猛威を振るったり、再びコロナが流行したりと、落ち着かない状況が続いています。また、今年の冬は暖冬傾向ということでもありましたが、例年ですと三寒四温でようやく暖かな日も訪れるようになる時季ですが、今年は三冷四暑(私がつくった造語)とも言えるほど、寒暖の差がはっきりしており、体調を崩す子どもや教員も多くなっています。

そんな中、先日は授業参観が行われました。1年間のお子様の成長を少しでも感じていただけたら幸いです。ご理解ご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

なお、学校ホームページでは、「四小アルバム」を中心に普段の授業の様子等をアップしていますので、こちらもぜひご覧いただけたらと存じます。

新座市立第四小学校



で検索

イエナプラン型の教育法

年度当初の学校だよりにも書きましたが、今年度はドイツで始まりオランダで広がったイエナプランという教育法を取り入れてきました。イエナプランは、学年・学級といった学級編制ではなく、異年齢のグループで構成されていることが特徴です。方策としてはかなり難しいところがありましたが、従来から行っている「なかよし遊び」をはじめとして、四小ゼミでの上級学年からの学習サポート、総合的な学習の時間での異学年との交流など、様々な実践や活動が展開されました。上級生が下級生にやさしく接する態度を養い、下級生は上級生の素晴らしさを感じる、とても良い関係づくりができたかと思っています。

既成概念を超えて

本年度、学校経営方針のコンセプトとして、Beyond established concepts ~既成概念を超えて~を掲げました。

教員一人ひとりが教育に対して抱いている、こうあるべきという既成概念を超えて、学級づくりをはじめとした教育活動を展開しようというものです。本校の教員は、

このコンセプトを基盤として、新しい教育方法にチャレンジしてきました。

前述のイエナプラン型の教育法もそうですが、今年度は授業スタイルとして、机の配置を必ずしも前向きにせず、4人班やペアでの学習に取り組みました。

教員が授業の課題や問題を提示したあとは、できるだけ話をせず、子どもたちの自主的な学びに任せていくという授業スタイルです。子どもたちは、課題を解決するために話し合う中で、漢字や計算の練習をするだけでは使われない部分の脳をフルに使って学習をしています。普段手を挙げない子も、話し合いの中では、自分の考えを話し、友達だけで課題解決していくという学習の中で、一人ひとりの考える力が育っています。

あと1か月の中で

第四小の子どもたちを見ていると、何か「自信のなさ」を感じます。自信は体験の中から生まれるものです。時には失敗をする体験も必要です。失敗の中から学ぶことはたくさんあります。ぜひ体験を通して、様々なことを学んでほしいです。

また、3月にもなると、「新年度になったら」「4月になったら」と、切りよく4月にスタートラインをもっていこうとする傾向があります。しかし、今できないことは1か月経ったからといって、できるようになるものではありません。1年かけて作ってきたものを1年一緒に過ごしてきたクラスの友達と確認し、次年度に生かすことが大切です。

あと1か月、4月からより良いスタートが切れるよう、教員も努力を重ねてまいりますので、ご家庭でのさらなる励ましと支援をよろしくお願いいたします。

